

## Jusqu'à ce que について

### —主節と従属節の主語が同一の場合—

阪上 り子

#### 0. はじめに

名詞グループ・不定法表現・節表現を構成する状況補語を導く時間的關係辞について、一般の文法書には、主節と従属節の主語が同一の場合は原則として不定法表現を用いるという記述がある。一方で、節表現が許容される事もあると主張する文法家もいる。そのような關係辞の用法で、節表現が許容される場合の理由を考察するために、阪上(2004)では、時間的後行状況を表す關係辞 *avant* をとりあげて検討した。

本稿では、同じように時間的後行状況を表す關係辞である *jusqu'à* に注目し、主節と従属節の行為主体が同一である場合、つまり同一主語が容認される理由について、*avant* の分析とも比較しながら考察していく。

以下では、次の順で検討をすすめる。1. で先行研究を概観し、2. で収集できた *jusqu'à ce que* を含む発話の主節と従属節の主語が同一の実例をみる。3. ではそれらの実例に操作を加えたものに関するインフォーマント<sup>1)</sup> の見解を参考にしながら、同一主語の発話が許容される理由を検討する。最後に4. で節表現のときは通常接続法が用いられるこの關係辞が直説法を伴う場合について考察する。

#### 1. 先行研究

*avant* の場合と同じく、*jusqu'à* を伴う発話に関する問題も、曾我(1992)の記述が詳しい。後行状況を表す關係辞として、*avant* と *jusqu'à* は同じ章(1992, pp. 123-149)で論じられている。まず、*jusqu'à* を伴う発話において、主節と従属節が同一主語の場合の曾我の仮説(pp. 141-148)<sup>2)</sup> をみておこう。

この關係辞はある事柄の限界点を示す働きをする。発話者が二つの事柄、P と Q<sup>3)</sup> を思い描くとき、「Q まで P」という持続的な時間的關係を表す場合と、それに加えて「Q ほど P、Q の程度にまで P」というような観念的關係を表す場合がある。そのような内容に相当する発話とその容認度には次のような傾向があるという。

まず、発話者が二つの事柄を「Q まで P」のような關係に捉える場合(1), (1)', (2) では、不定法表現を含む発話の適合度はきわめて低い。(1)は「自分がこのマンションにとどまること」というような持続的・線的な P を想起し、P の展開の限界が「自分が旅行に出か

けること」または「自分がこの仕事を終わってしまうこと」という Q の生起時点であるとする内容で、(2)は「自分がダイヤルをゆっくり回すこと」という P を想起し、P の展開の限界が「自分が France Culture を探りあてること」という Q の生起時点という内容である。(3)は、「山田がカジノでギャンブルをすること」という P に対し、「山田がすべて失うこと」という限界点を表す Q、(4)は「自分がせりふを書くこと」という P に対し「自分がすっかりぼけていること」という限界点を表す Q という内容をもつ発話である。

- (1) a. \* Je resterais dans cet appartement *jusqu'à* partir en voyage.  
 b. \* *Jusqu'à* partir en voyage, je resterais dans cet appartement.  
 c. Je resterais dans cet appartement *jusqu'à* ce que je parte en voyage.  
 d. *Jusqu'à* ce que je parte en voyage, je resterais dans cet appartement.
- (1)' a. ?? Je resterais dans cet appartement *jusqu'à* avoir terminé ce travail.  
 b. \* *Jusqu'à* avoir terminé ce travail, je resterais dans cet appartement.  
 c. Je resterais dans cet appartement *jusqu'à* ce que j'aie terminé ce travail.  
 d. *Jusqu'à* ce que j'aie terminé ce travail, je resterais dans cet appartement.
- (2) a. ?? J'ai tourné lentement le bouton *jusqu'à* reconnaître France Culture.  
 b. \* *Jusqu'à* reconnaître France Culture, j'ai tourné lentement le bouton.  
 c. J'ai tourné lentement le bouton *jusqu'à* ce que je reconnaisse France Culture.  
 d. (?) *Jusqu'à* ce que je reconnaisse France Culture, j'ai tourné lentement le bouton.
- (3) a. ?? Yamada a joué au casino *jusqu'à* avoir tout perdu.  
 b. \* *Jusqu'à* avoir tout perdu, Yamada a joué au casino.  
 c. Yamada a joué au casino *jusqu'à* ce qu'il ait tout perdu.  
 d. *Jusqu'à* ce qu'il ait tout perdu, Yamada a joué au casino.
- (4) a. ?? J'écrirai des dialogues *jusqu'à* être complètement gâteux.  
 b. \* *Jusqu'à* être complètement gâteux, j'écrirai des dialogues.  
 c. J'écrirai des dialogues *jusqu'à* ce que je sois complètement gâteux.  
 d. *Jusqu'à* ce que je sois complètement gâteux, j'écrirai des dialogues.

(1)' a. でイメージに適合するという判断には、「仕事を終わってしまうほどマンションで頑張る」というような観念的關係が時間的關係に重なるという回答があり、(2) a.、(3) a. や (4) a. がイメージに適合するという判断にも「France Culture を探りあてることをめざして、それまでダイヤルをゆっくり回す」、「山田がカジノで賭博をする、すべて失うほど」や「自分がせりふを書く、すっかりぼけてしまうほど」など時間的觀點に観念的關係が重なるイメージに対する適合度を回答した可能性がある、というのが調査結果である。これらの例が示す発話者のイメージ構造は、P を現実の時間の流れの中である位置を占めるものとして思い描き、その展開の枠組みとして限界点の Q を想起するか、Q を思い描き、それを枠組みとして P を現実の時間の流れの中である位置を占めるものとして想起する

かであるという。また、これは Franckel, J.-J. の「容易には前置できない」(1989, pp. 401-403) という記述にも関連するものであるというのが曾我の主張である。

次は時間的状況に観念的状況が重なる場合の例である。(5)は「飛行機が雲の中にどんどん遠ざかっていくこと」という P の限界点として「飛行機が完全に姿を消すこと」という Q を思い描くという内容である。

- (5) a. L'avion s'éloigne rapidement dans les nuages *jusqu'à* disparaître complètement.  
 b. \* *Jusqu'à* disparaître complètement, l'avion s'éloigne rapidement dans les nuages.  
 c. (?) L'avion s'éloigne rapidement dans les nuages *jusqu'à* ce qu'il disparaîsse complètement.  
 d. ? *Jusqu'à* ce qu'il disparaîsse complètement, l'avion s'éloigne rapidement dans les nuages.

ここで不定法表現が容認されるのは、「飛行機が雲のなかをどんどん遠ざかっていく、完全に姿を消すほどに」というような観念的關係において、Q を P になめらかに連動するようなものを見る場合、P に対する Q の自立性をそれだけ低いものと意識することになるということと、不定法表現を後置する構造がイメージに適合するからであろうと推測される。

時間的關係をほとんど意識せず、「Q ほど P、Q の程度にまで P」という主に観念的關係において二つの事柄を捉える例も挙げられている。そのようなイメージには、不定法表現を後に置く発話だけが適合するという。

- (6) L'employé a insisté *jusqu'à* mettre le directeur hors des gonds.  
 (7) La jeune fille s'est enhardie *jusqu'à* s'adresser directement à lui.  
 (8) Seulement ce bon Français (...) n'a pas poussé le nationalisme *jusqu'à* investir dans son propre pays ou dans sa propre cité le produit de ses détournements.

曾我の仮説をまとめると、「P と Q について、時間的關係が極大で観念的關係が極小と捉える場合は節表現を、逆に時間的關係が極小で観念的關係が極大と捉える場合は不定法表現を用いる。また、二つの關係が重なる中間的段階の場合は、両者の配分をどのように捉えるかによって P に対する Q の自立性の評価が変動し、それに応じて不定法表現と節表現のどちらかを選ぶ」ということである。

## 2. 発話例

### 2.1. コーパス

曾我の研究は、作例についてインフォーマントの見解を聞き、その分析から状況補語全般に関する問題を統一的に説明しようとするようなメカニズムに関する仮説を導き出したものである。阪上 (2004) で *avant* についてコーパスにおける事例を抽出して検討した結果、そ

の仮説を裏づけるものが実際、多くみられた。他方、実例にはさまざまな構造、複数の従属節を含む複雑な構造をもつ発話のなかに登場するものがあり、それらのなかには必ずしも曾我の仮説とは一致しないような例もあった。jusqu'à についても、そのような新たな発見を期待することは可能であろう。

例の収集には avant の場合と同様 Frantext を利用し、同じサブ・コーパス、すなわち 1950 年以降の作品群のなかから検索を行った。jusqu'à ce que と jusqu'à ce qu' を検索したところ、生起数はそれぞれ 362 と 277 という結果が出た。それらの中で、主節と従属節の主語が同一であると判別できたのは、それぞれ 16 例、57 例であった。avant の場合、avant que と avant qu' の生起数は 616 と 403 で、同一主語と判別できたのはそれぞれ 10 例、31 例であるから、全体の生起数に対して同一主語である割合は jusqu'à の方が多いという傾向がある。

まず、抽出した例の主節<sup>4)</sup>と従属節の動詞時称形の組み合わせの分類から始めた。Frantext はさまざまな分野・文体からなる書き言葉の資料であるから、曾我では標準的なフランス語<sup>5)</sup>ではないという理由から扱われていない接続法の半過去形や大過去形が従属節に登場する例もある。まとめると表 1 の様になる。

表 1 同一主語の場合の主節と従属節の動詞時称形の組み合わせ

主節の動詞	従属節の動詞			
直・単純未来形 10	接・現在形 6	接・過去形 4		
直・現在形 27	接・現在形 19	接・過去形 8		
直・複合過去形 5	接・現在形 3	接・過去形 2		
直・半過去形 13	接・現在形 8	接・過去形 1	接・半過去形 3	接・大過去形 1
直・大過去形 3	接・現在形 2		接・半過去形 1	
直・単純過去形 10	接・現在形 2		接・半過去形 4	接・大過去形 4
接・現在形 3	接・現在形 3			
直・現在形 1	直・現在形 1			
直・半過去形 1	直・複合過去形 1			

直・および接・は、直説法および接続法を示す

avant の場合に比べて例が多いだけに jusqu'à を伴う発話の動詞時称形の組み合わせの種類も多い。主節が接続法におかれた場合もあるが、これは複数の従属節を含む複雑な構造の発話において観察されたものである。このような発話の分析にはかなり多様な要因を考慮に入れなければならないので、本稿では扱わない。次節からは、実例における主節と従属節が同一主語である例を表 1 の主節の動詞時称形ごとにみていく。

## 2.2. 主節の動詞が直説法単純未来形

事柄を持続的なものと関連づけ、それが発話時より未来の領域に関わるという文脈で *jusqu'à ce que* が登場する例は *avant que* に比べて多いようである。次の例では、*jusqu'à* が節表現を伴って登場する記述のあとに不定法表現が登場しており、節表現と不定法表現との使い分けの痕跡を示しているようで興味深い。

- (9) Si donc, à la suite par exemple d'une exploitation, on entrouve brutalement le peuplement environnant et qu'on isole l'arbre en question, un grand nombre de ces bourgeons donneront naissance à de nouvelles branches qui végéteront vigoureusement *jusqu'à ce qu'elles soient à nouveau étouffées* par le peuplement voisin si celui-ci se reconstitue rapidement (coupe du taillis dans un taillis sous futaie). Si l'arbre reste isolé assez longtemps, elles poursuivront leur développement *jusqu'à constituer une nouvelle cime à un étage inférieur*. (Cochet, J, *Cult. Aménag. Amélior. Bois*, 1963, p. 24)

植物に関する記述であるが、新たな枝が生育して密度を増していくのは、時間の流れとともに自然に生じていくことで、ある程度の成長を遂げた枝の状態というのは、P におけるそれとは別の状態として自立性が高いと捉えることができる。*à nouveau* という副詞句も Q の自立性をより明確に示すためと解釈できる。そのあとの記述の「新たな頂」というのは、枝の生育の延長上にあるものとして時間的關係のなかでもっばら捉えることができるとも考えられるが、不定法表現で表されている。

- (10) Dans le miroir du rétroviseur, je vois tout le groupe, en silhouette, qui salue de la main, et l'ogive rose de la chapelle, mince et longue comme une épée, car les deux cierges continueront à brûler *jusqu'à ce qu'ils soient au bout de leur cire*. (T'serstevens, A., *L'itinéraire espagnol, Le retour*, 1963, pp. 328-329)

ろうそくが燃え尽きていく描写で関係辞が用いられている例なので、状況節の内容はもっばら時間的なものを表していると解釈するのは自然である。次の2例は、接続法使用が原則の関係辞が導びく節表現において、概して主節と従属節の主語が同一の場合の例が少ないとされる一人称主語、二人称主語の例である。

- (11) Je décidai que j'allais consacrer les prochaines années à chercher avec acharnement la vérité. "je travaillerai, comme une brute, *jusqu'à ce que je la trouve*." Pradelle me rendit un grand service en ranimant mon goût pour la philosophie. (Beauvoir, S de, *Mémoires jeune fille rangée*, 3ème partie, 1958, p. 246)
- (12) - Et alors, ils m'ont donné l'amende. Et ils m'ont dit: tu en auras une *jusqu'à ce que tu t'arrêtes de boire*. Comme ça, tu ne pourras plus acheter de vin. (Etcherelli, Cl, *Elise ou la vraie vie*, deuxième partie, 1967, p. 204)

次の例の従属節中の動詞は接続法過去形におかれている。したがって、*obtenir* という

行為の完了の意味が読み取れるが、そのために接続法現在形の時より観念的な意味合いがより強く感じられる。この例は何かしらの作業の手順を記述したもので、この発話の次の内容は、それに続いてすべき作業が述べられており、全体の文脈は時間的な流れに添った行為を記述するものである。

- (13) Le premier rouleau terminé, passer au second. On procédera ainsi *jusqu'à* ce qu'on ait obtenu le nombre de lés nécessaire. (Bonnell-Tassan, *Trav. Aménagement dans maison*, 1966, p. 154)

### 2.3. 主節の動詞が直説法現在形

動詞時称形の組み合わせとしては最も多い。まず、従属節の動詞が接続法現在形におかれているものからみていこう。

- (14) Le savant ne doit rien négliger. En face de certaines coutumes, si complètement invraisemblables qu'elles soient en elles-mêmes ou dans leurs résultats, l'homme de science qui ne les pénètre pas doit les constater, les réfléchir *jusqu'à* ce qu'il en établisse le mécanisme. (Marin, L., *Les études ethniques en 1950*, 1954, p. 65)

「科学者がある問題に関してそのメカニズムを明らかにするまで」が従属節の内容であるが、これは調査・考察の時間的延長上に位置する事柄であっても、かなり観念的意味を表す内容である。一方、次の(15)は、圧力に関する科学的記述に登場する例であるが、この場合は観念的な内容があまり感じられない。

- (15) l'air comprimé du réservoir pénètre dans la chambre D, et, par l'orifice B, se rend aux cylindres de frein. Dans la chambre D, la pression monte *jusqu'à* ce qu'elle soulève le diaphragme 17, en comprimant le ressort 23, et laisse ainsi se fermer le clapet d'admission 3. (Chapelain, Ch., *Cours de technique automobile*, 1956, p. 254)

次は主語が一人称単数の例であるが、関係辞が導びく従属節は二つあり、最初の方が同一主語例に相当する。動詞が *pouvoir* で、それ自体が観念的内容を表すものである。

- (16) Mais je suis incapable de cet effort-là. J'attends encore huit jours, quinze jours, un mois, *jusqu'à* ce qu'enfin je n'en puisse plus et que la peinture sorte de moi comme une voix, comme des paroles. (Dutourd, J., *Pluche ou l'amour de l'art, X au chic d'Alésia*, 1967, p. 120)

今度は従属節の動詞が接続法過去形におかれている例をみてみよう。(17)の主語は三人称単数で、(18)のそれは一人称複数である。

- (17) Pourquoi encore ? Stevens parce que vous étiez là... détournant la tête, Temple étend la main vers la table, tâtonne *jusqu'à* ce qu'elle ait trouvé la boîte de cigarettes, en prend une et, de la même main, fourrage *jusqu'à* ce qu'elle ait trouvé le briquet, ramène le tout sur ses genoux. (Camus, A., *Requiem pour une nonne*, Ière partie,

3ème tableau, 1956, p. 845)

- (18) Nous poursuivons inlassablement, en dépit de tous les obstacles, cet effort de recrutement, d'instruction, d'encadrement, d'armement, *jusqu'à* ce que nous ayons rendu à la France les grandes armées qu'elle veut avoir. (Gaule, Ch. de, *Mémoires de guerre : Le salut*, 1959, p. 451)

いずれの例も、従属節で述べられている行為は主節で述べられているその時間的延長線上に起こる事を表しているが、「～してしまう程、～の程度まで」のような意味も解釈することができる。

#### 2.4. 主節の動詞が直説法複合過去形

まず、従属節が接続法現在形におかれている例からみていくが、表1にあるように3例だけである。同一主語が三人称単数のものが2例と一人称単数のものが1例であった。

- (19) - Mais, dit le professeur Rosenburg, une semaine plus tard, ce nouveau comité travaillait avec autant de zèle. Il en a été ainsi *jusqu'à* ce qu'il soit également dissous, remplacé par un troisième et ainsi de suite. (Bazin, H., *La fin des asiles : On ne châtie plus les victimes*, 1959, p. 151)
- (20) Des voix ont parlé dans la nuit. J'ai tiré Vitta au-dehors, qui était beaucoup plus fier que l'autre salopard, qui essayait de me porter des coups au bas-ventre, et je l'ai battu, relevé, battu à grandes claques, sur une pelouse, *jusqu'à* ce que je comprenne que j'allais le tuer. Je suis rentré chez moi. (Japrisot, S., *La dame dans l'auto : Le fusil*, 1966, p. 258)

これらの例にも、従属節の内容は主節で述べられたことの時間的延長上に起こること、というだけでなく「～の程度まで」のような意味が読み取れる。

次に、従属節が接続法過去形におかれた例をみよう。これは2例しか抽出できなかったが、その内の1例は従属節が前置されている例である。確かに、*avant* に比べても *jusqu'à* が節表現を伴うときに前置されている場合は少なく、全部で5例に過ぎなかった。

- (21) Nous lui faisons à tour de rôle la chronique de notre journée et, par le menu, lui rapportons ce que nos maîtres et maîtresses avaient tenté de nous apprendre et que Virginie surtout avait retenu, Virginie sans effort et c'était là un don qui alarma mon père au point qu'il m'a négligé, un temps, m'expédiant, *jusqu'à* ce qu'il ait compris que Virginie était perdue et qu'il me fallait préserver, moi, son immortalité. (Berger, Y., *Le sud*, 1962, pp. 31-32)
- (22) Ma douleur et mon chagrin me terrasseront aujourd'hui! *Jusqu'à* ce que j'aie connu ton entrée au couvent, j'ai souffert sans cesser d'espérer. (Camus, A., *La dévotion à la croix adapt., deuxième journée*, 1953, p. 566)

## 2.5. 主節の動詞が直説法半過去形

主節の動詞が直説法半過去形におかれているときは、従属節の動詞活用形の種類が最も多い。関係辞の意味が限界を示すものであるから、その限界まで持続していた行為を明示する活用形と組み合わせやすいことは自然である。また、Benveniste の言う *histoire* と *discours* の二つの発話行為面において用いられる時称形であることの現れでもあろう。まず、従属節の動詞が接続法現在形のものからみていこう。(23)の従属節の内容の「年をとる」ということは時間的延線上に起こることであるが、そうなる状態を今のそれとは別物と捉えやすいので、時間的な意味以上のものを読み取ることができるが、(24)では、それほど主語に関する観念的意味の対比は強くない。

(23) Il n'allait pas "se la couper", non, pour qu'elle se calme. Il n'allait pas se retenir comme ça *jusqu'à* ce qu'il devienne un vieillard. (Paysan, C., *Les feux de la chandeleur*, 1966, p. 56)

(24) C'était plus simple qu'à l'aller. Je devais aller tout droit, retomber sur la route et là, à gauche, *jusqu'à* ce que je rejoigne le chemin où j'ai planqué la Toyota. (Pouy, J.-B., *La clef des mensonges*, 1988, p. 178)

次に従属節の動詞が接続法過去形である場合をみよう。

(25) ... plusieurs autres cas de ce genre, que l'on nomma bientôt "correspondances croisées", dans lesquelles les textes de plusieurs "médioms" restaient obscurs *jusqu'à* ce qu'ils aient été éclairés les uns par les autres, semblent, en vérité, constituer des exemples précis de communications télépathiques. (Amadou, R., *La parapsychologie*, 1954, p. 115)

従属節の動詞は受動態におかれていることもあり、「明らかにされてしまうまで」という観念的な意味は読み取りやすい。

主節の動詞が過去の領域におかれている発話の従属節の動詞には、接続法の半過去形や大過去形におかれているものがある。上でも引用したように、標準的なフランス語には相対しないが、従属節が前置されている例も観察できたので、みておくことにする。

(26) De même un village lorrain se nommait Condé *jusqu'à* ce qu'il fût érigé en marquisat, en 1719, sous le nom de Custine. Ce genre de modification est assez rare en toponymie. (*L'histoire et ses méthodes*, 1961, pp. 682-683)

(27) L'année suivante en effet, Samba Diallo, conduit par sa mère, revenait au maître qui prit possession de lui, corps et âme. Désormais et *jusqu'à* ce qu'il eût achevé ses humanités, il n'appartenait plus à sa famille. (Kane. Cheikh Hamidou, *L'aventure ambiguë, première partie*, 1961, pp. 21-22)

このような時称形の組み合わせの場合、主節に対する従属節の内容の自立性はより強く読み取れる。また(27)では、従属節は前置されているが *Désormais* という副詞が先行してい



るので、時間的限界点を導入しやすい文脈環境が整っている。

## 2.6. 主節の動詞が直説法大過去形

このタイプは、従属節の動詞が接続法の現在形におかれたもの2例と、半過去形におかれたものの1例だけであった。

- (28) Et bien évidemment, ni Justine, ni moi, n'avions les moyens de prendre une chambre dans le même hôtel qu'eux. Nous avons pris l'habitude de hanter les alentours, *jusqu'à ce que nous découvrions un gîte dans nos moyens.* (Manceuvre, P., *L'enfant du rock, La bagarre*, 1985, p. 121)
- (29) Besson, immobile, regardait toujours le verre. Au début, il avait décidé de l'étudier complètement, *jusqu'à ce qu'il le sût par cœur.* (Le Clézio, J.-M. G., *Le déluge*, 1966, p. 84)

## 2.7. 主節の動詞が直説法単純過去形

直説法単純過去形は、Benveniste の言う発話行為面の *histoire* を表す特権的な時称形である。従属節の動詞も接続法半過去形や大過去形におかれたものの方が多い。代表的な例をあげるにとどめる。

- (30) Besson longea à nouveau les talus, *jusqu'à ce qu'il arrive à un pâté de maisons.* (Le Clézio, J.-M. G., *Le déluge*, 1966, p. 243)
- (31) Harrison construisit successivement quatre modèles *jusqu'à ce qu'il réalisât enfin celui qui devait lui valoir son triomphe.* (Bassermann-Jordan, *Montres, horloges et pendules*, 1964, p. 173)
- (32) Le général goûta, regoûta et continua à goûter *jusqu'à ce qu'il eût tout mangé*, dit la comtesse de Ségur à propos du général Dourakine. (Bazin, H., *La mort du petit cheval*, 1950, pp. 85-86)

以上で、関係辞 *jusqu'à* が主節と同一主語をもつ節表現を導びく例を概観したわけだが、発話構造の種類という点に関しては、*avant* の場合ほどヴァリエーションがみられない。*avant* を伴う発話には、主節の主語とその動詞との間に従属節が挿入されている例や、従属節が前置されたときに *cataphore* が生じている例が観察された。この現象が起こるときは、前置するということが主節との一種の断絶を表すためだけではなく、逆に発話全体をひとつの閉じた単位として明示したいという発話意図があるのではないかと、ということが *avant* の分析を通じて疑問として残っている問題である。*jusqu'à* を伴う発話に *cataphore* は観察できなかったが、先行研究でも指摘されているように、従属節の前置が少ないということは確認できた。次節では、これらを考慮に入れながら考察をすすめていく。

### 3. 節表現であるための理由

関係辞 *jusqu'à* が節表現を導入する事例には、時間的關係が強く感じられたものもあったが、そうとも言い切れないようなものもあった。1. で引用した曾我の見解、「時間的關係と観念的關係が重なる中間的段階にあるような場合は、発話者が両者の配分をどのように捉えるかによって P に対する Q の自立性の評価が変動し、それに応じて不定法表現と節表現のどちらかを選ぶ」について、より具体的にその配分に関する何らかの手がかりが得られるかも知れないと考え、次のような調査を行った。

2. で抽出できた例のいくつか<sup>6)</sup>について、まず、*jusqu'à* が不定法表現を導びく前置の場合と後置の場合の二通りを作成した。そして、節表現でも、原文とは異なる位置にある場合を作成し、それらの四通りをインフォーマントに見せ、原文がどれかは伏せた状態で、その容認可能性について判断してもらった。最も自然な発話には1を、次いで自然と判断できるものには2を、同程度と思われる場合は同じ番号を付ける、また、容認不可能な場合は \* を、拒否しないまでも不自然と判断される場合は ? を付けてもらう、というルールで判断してもらった。次節で、その結果を場合分けしながらみていこう。

#### 3.1. 節表現が望ましいと判断された例

次の例は原文が最も望ましい、すなわち節表現が最も自然と、インフォーマント全員が判断したものである<sup>7) 8)</sup>。

- (12)'a. - Et alors, ils m'ont donné l'amende. Et ils m'ont dit: tu en auras une *jusqu'à* t'arrêter de boire. Comme ça, tu ne pourras plus acheter de vin.
- b. - Et alors, ils m'ont donné l'amende. Et ils m'ont dit *jusqu'à* t'arrêter de boire, tu en auras une. Comme ça, tu ne pourras plus acheter de vin.
- c. - Et alors, ils m'ont donné l'amende. Et ils m'ont dit: tu en auras une *jusqu'à* ce que tu t'arrêtes de boire. Comme ça, tu ne pourras plus acheter de vin. (Etcherelli, Cl, *Elise ou la vraie vie*, deuxième partie, 1967, p. 204)
- d. ? - Et alors, ils m'ont donné l'amende. Et ils m'ont dit: *jusqu'à* ce que tu t'arrêtes de boire, tu en auras une. Comme ça, tu ne pourras plus acheter de vin.
- (18)'a. Nous poursuivons inlassablement, en dépit de tous les obstacles, cet effort de recrutement, d'instruction, d'encadrement, d'armement, *jusqu'à* avoir rendu à la France les grandes armées qu'elle veut avoir.
- b. ?? *Jusqu'à* avoir rendu à la France les grandes armées qu'elle veut avoir, nous poursuivons inlassablement, en dépit de tous les obstacles, cet effort de recrutement, d'instruction, d'encadrement, d'armement.
- c. Nous poursuivons inlassablement, en dépit de tous les obstacles, cet effort de recrutement, d'instruction, d'encadrement, d'armement, *jusqu'à* ce que nous ayons

rendu à la France les grandes armées qu'elle veut avoir. (Gaule, Ch. de, *Mémoires de guerre : Le salut*, 1959, p. 451)

- d. ? *Jusqu'à* ce que nous ayons rendu à la France les grandes armées qu'elle veut avoir, nous poursuivons inlassablement, en dépit de tous les obstacles, cet effort de recrutement, d'instruction, d'encadrement, d'armement.
- (20)'a. J'ai tiré Vitta au-dehors, qui était beaucoup plus fier que l'autre salopard, qui essayait de me porter des coups au bas-ventre, et je l'ai battu, relevé, battu à grandes claques, sur une pelouse, *jusqu'à* comprendre que j'allais le tuer.
- b. ?? J'ai tiré Vitta au-dehors, qui était beaucoup plus fier que l'autre salopard, qui essayait de me porter des coups au bas-ventre, et *jusqu'à* comprendre que j'allais le tuer, je l'ai battu, relevé, battu à grandes claques, sur une pelouse.
- c. J'ai tiré Vitta au-dehors, qui était beaucoup plus fier que l'autre salopard, qui essayait de me porter des coups au bas-ventre, et je l'ai battu, relevé, battu à grandes claques, sur une pelouse, *jusqu'à* ce que je comprenne que j'allais le tuer. (Japrisot, S., *La dame dans l'auto : Le fusil*, 1966, p. 258)
- d. ? J'ai tiré Vitta au-dehors, qui était beaucoup plus fier que l'autre salopard, qui essayait de me porter des coups au bas-ventre, et *jusqu'à* ce que je comprenne que j'allais le tuer, je l'ai battu, relevé, battu à grandes claques, sur une pelouse.

上の3例は、節と従属節の主語が同一の場合の例が少ないとされる一人称主語、二人称主語の例である。これらと同様に判断された他の例にも、一人称主語のものがあるので、人称によって容認度が異なるというのは、傾向という程でもないのかも知れない。(20)' a. については、不定法表現だと「彼を殺すことになることがわかる」という行為主体が Vitta である可能性が出てきてしまう。つまり、行為主体の同一性に誤解をおこさせないため、が同一主語の節表現の要因のひとつである。

### 3.2. 不定法表現で十分自然と判断された例

次にあげる例は、節表現は自然だが不定法表現の方も同様に自然、あるいはそれで十分であると、インフォーマント全員が判断した例である。

- (11)'a. Je décidai que j'allais consacrer les prochaines années à chercher avec acharnement la vérité. "je travaillerai, comme une brute, *jusqu'à* la trouver.
- b. Je décidai que j'allais consacrer les prochaines années à chercher avec acharnement la vérité. "*jusqu'à* la trouver, je travaillerai, comme une brute."
- c. Je décidai que j'allais consacrer les prochaines années à chercher avec acharnement la vérité. "je travaillerai, comme une brute, *jusqu'à* ce que je la trouve." (Beauvoir, S de, *Mémoires jeune fille rangée*, 3ème partie, 1958, p.

- 246)
- d. Je décidai que j'allais consacrer les prochaines années à chercher avec acharnement la vérité. "*jusqu'à* ce que je la trouve, je travaillerai, comme une brute."
- (13)'a. Le premier rouleau terminé, passer au second. On procédera ainsi *jusqu'à* avoir obtenu le nombre de lés nécessaire.
- b. \* Le premier rouleau terminé, passer au second. *Jusqu'à* avoir obtenu le nombre de lés nécessaire, on procédera ainsi.
- c. Le premier rouleau terminé, passer au second. On procédera ainsi *jusqu'à* ce qu'on ait obtenu le nombre de lés nécessaire. (Bonnell-Tassan, *Trav. Aménagement dans maison*, 1966, p. 154)
- d. \* Le premier rouleau terminé, passer au second. *Jusqu'à* ce qu'on ait obtenu le nombre de lés nécessaire, on procédera ainsi.
- (28)'a. Nous avons pris l'habitude de hanter les alentours, *jusqu'à* découvrir un gîte dans nos moyens.
- b. ?? *Jusqu'à* découvrir un gîte dans nos moyens, nous avons pris l'habitude de hanter les alentours.
- c. Nous avons pris l'habitude de hanter les alentours, *jusqu'à* ce que nous découvriions un gîte dans nos moyens. (Mancœuvre, P., *L'enfant du rock, La bagarre*, 1985, p. 121)
- d. ?? *Jusqu'à* ce que nous découvriions un gîte dans nos moyens, nous avons pris l'habitude de hanter les alentours.

これらの例の問題の発話は、比較的単純な構造で行為主体に関して誤解の余地がないため冗長という印象を与える、とコメントするインフォーマントもいた。P と Q の関係という点では、Q の自立性が高いとは解釈しにくい例である。むしろ、P の時間の流れという枠組みのなかの延長上にある限界を Q が示し、P と Q 全体がなめらかに続く二つの事態を密接な関係にあるものと表している内容なので、節をたてるほどでもないという印象を与えるのであろう。同様に判断された例で、2. であげたものには(26)もある。

### 3.3. 節表現と不定法表現の両方が同様に自然と判断された例

これからみていく例は、節表現と不定法とがともに自然と判断された例である。しかし、どちらかというとな節表現の方が自然と判断したインフォーマントが多い例の割合が勝っているという傾向がみられた。つまり、不定法表現でも自然であるが、どちらかを選ぶとするならばむしろ節表現という回答があったものである。そのような例からみていこう。

- (17)'a. ... détournant la tête, Temple étend la main vers la table, tâtonne *jusqu'à* avoir

trouvé la boîte de cigarettes et ...

- b. ? ... détournant la tête, *jusqu'à* avoir trouvé la boîte de cigarettes, Temple étend la main vers la table, tâtonne et ...
- c. ... détournant la tête, Temple étend la main vers la table, tâtonne *jusqu'à* ce qu'elle ait trouvé la boîte de cigarettes et .... (Camus, A., *Requiem pour une nonne*, 1ère partie, 3ème tableau, 1956, p. 845)
- d. \* ... détournant la tête, *jusqu'à* ce qu'elle ait trouvé la boîte de cigarettes, Temple étend la main vers la table, tâtonne et ....
- (32)a. Le général goûta, regoûta et continua à goûter *jusqu'à* avoir tout mangé, dit la comtesse de Ségur à propos du général Dourakine.
- b. \* *Jusqu'à* avoir tout mangé, le général goûta, regoûta et continua à goûter, dit la comtesse de Ségur à propos du général Dourakine.
- c. Le général goûta, regoûta et continua à goûter *jusqu'à* ce qu'il eût tout mangé, dit la comtesse de Ségur à propos du général Dourakine. (Bazin, H., *La mort du petit cheval*, 1950, pp. 85-86)
- d. \* *Jusqu'à* ce qu'il eût tout mangé, le général goûta, regoûta et continua à goûter, dit la comtesse de Ségur à propos du général Dourakine.

この2例に共通点を見いだすとすれば従属節の動詞が複合形であることだが、節表現が好まれる要因とは言いきれないであろう。また、(17)'は2. の(17)であげたように、他の行為が引き続き起こる描写の一部で、同じ関係辞が導びく節表現があとに続く。それをも含めた形での調査をするべきであったのかも知れない。

次に、2. ではあげなかった例で、むしろ節表現が望ましかろうと判断されたものをいくつかみてみよう。

- (33)a. - Bon. Après ce pays, tu tournes à droite, tu traverses un pont, tu passes devant une gare, tu files *jusqu'à* trouver une caserne sur la gauche.
- b. - Bon. Après ce pays, tu tournes à droite, tu traverses un pont, tu passes devant une gare, *jusqu'à* trouver une caserne sur la gauche, tu files.
- c. - Bon. Après ce pays, tu tournes à droite, tu traverses un pont, tu passes devant une gare, tu files *jusqu'à* ce que tu trouves une caserne sur la gauche. (Fallet, R., *Le triporteur*, 1951, p. 70)
- d. - Bon. Après ce pays, tu tournes à droite, tu traverses un pont, tu passes devant une gare, *jusqu'à* ce que tu trouves une caserne sur la gauche, tu files.
- (34)a. nous ajoutons : "le comité s'engage à rétablir toutes les libertés françaises, les lois de la république, le régime républicain, *jusqu'à* avoir pu remettre ses pouvoirs au futur gouvernement provisoire de la république.

- b. ? nous ajoutions : "*jusqu'à* avoir pu remettre ses pouvoirs au futur gouvernement provisoire de la république, le comité s'engage à rétablir toutes les libertés françaises, les lois de la république, le régime républicain.
- c. nous ajoutions : "le comité s'engage à rétablir toutes les libertés françaises, les lois de la république, le régime républicain, *jusqu'à* ce qu'il ait pu remettre ses pouvoirs au futur gouvernement provisoire de la république.
- d. ? nous ajoutions : "*jusqu'à* ce que le comité ait pu remettre ses pouvoirs au futur gouvernement provisoire de la république, il s'engage à rétablir toutes les libertés françaises, les lois de la république, le régime républicain. (Gaulle, Ch. de, *Mémoires de guerre : l'unité*, 1956, p. 108)
- (35) a. Que ses parents étaient morts accidentellement lorsqu'il avait quatre ans, et qu'il avait passé le reste de son enfance dans un sordide pensionnat *jusqu'à* s'engager pour l'Indo.
- b. ?? Que ses parents étaient morts accidentellement lorsqu'il avait quatre ans, et que *jusqu'à* s'engager pour l'Indo, il avait passé le reste de son enfance dans un sordide pensionnat.
- c. Que ses parents étaient morts accidentellement lorsqu'il avait quatre ans, et qu'il avait passé le reste de son enfance dans un sordide pensionnat *jusqu'à* ce qu'il s'engage pour l'Indo. (Boudard, A., *La crise*, 1963, p. 222)
- d. ?? Que ses parents étaient morts accidentellement lorsqu'il avait quatre ans, et que *jusqu'à* ce qu'il s'engage pour l'Indo, il avait passé le reste de son enfance dans un sordide pensionnat.

(34)は、従属節が前置されている数少ない例のうちの一つであるが、原文よりも従属節が後置された (34) c. の方が自然とみなされるようであった。

今度は、どちらかという不定法表現が望ましかろうと判断された例をみよう。上で述べたようにこちらの方が少数で、次の2例である。

- (30) a. Besson longea à nouveau les talus, *jusqu'à* arriver à un pâté de maisons.
- b. ?? *Jusqu'à* arriver à un pâté de maisons, Besson longea à nouveau les talus.
- c. Besson longea à nouveau les talus, *jusqu'à* ce qu'il arrive à un pâté de maisons. (Le Clézio, J.-M., G., *Le déluge*, 1966, p. 243)
- d. ?? *Jusqu'à* ce qu'il arrive à un pâté de maisons, Besson longea à nouveau les talus.
- (36) a. Au reste, les exemples dont le caractère de jeu ne fait aucun doute ne manquent pas. Les chiens tournent sur eux-mêmes pour attraper leur queue, *jusqu'à* tomber.
- b. ?? Au reste, les exemples dont le caractère de jeu ne fait aucun doute ne manquent pas. *Jusqu'à* tomber, les chiens tournent sur eux-mêmes pour attraper leur

queue.

- c. Au reste, les exemples dont le caractère de jeu ne fait aucun doute ne manquent pas. Les chiens tournent sur eux-mêmes pour attraper leur queue, *jusqu'à ce qu'ils tombent.* (*Jeux et sports*, 1967, pp. 170-171)
- d. ? Au reste, les exemples dont le caractère de jeu ne fait aucun doute ne manquent pas. *Jusqu'à ce qu'ils tombent, les chiens tournent sur eux-mêmes pour attraper leur queue.*

3.1. や 3.2. の場合と合わせて考えると、節表現が好まれるのは、Q の行為主体が P とのそれと同じであっても、別の状態として認識されやすい内容の場合であると言える。Q の内容の時間的および観念的關係の配分の度合いについては、解釈する立場からその境界を見きわめるのは難かしく、形式的な手がかりの発見にまでは至らなかった。結局のところ、曾我が言う「P の自立性の高さ」が最も大きな要因なのであろう。節表現の方が望ましいとされる例については、不定法表現および節表現を前置した場合に関する容認度をみると、概して、拒否される度合は不定法表現が好まれる場合よりも低い傾向がある。状況補語を前置することが常にそれを主題的に扱うことを意味するとは考えられないが、情報として先に与えられた場合、その後続く内容が状況補語と連動して解釈しにくいようなものであると認識されるということは、言い換えれば、Q の自立性の高さを意味しているということなのであろう。

#### 4. 従属節の動詞が直説法の場合

関係辞 *jusqu'à* が節を伴うとき、その動詞は接続法におかれるのが原則である。曾我がの記述 (1992, p. 147) にも「発話者はふつう、P の限界点を画す事態である Q の時間的位置を P の時間的位置との関連において相対的に捉えるのであり、はじめから Q を P と独立に現実の時間の流れの中に位置づけようとはしない。これが、原則として *jusqu'à* の後に直説法節を用いないことの原因であると考えられる」とある。しかし、まれに Q 自体をなんらかの意味で重要な出来事としても想起する場合がおり、Q を P と独立した現実の時間の流れの中である位置を占めるものと捉えるときは、直説法節を含む発話を構成することがあり、次のような例を曾我がはあげている。

- (37) Marie a continué à jouer ... *jusqu'à ce qu'enfin les voisins sont venues protester.*  
(*Ibid.* pp. 147-148)

また、このような場合、しばしば *jusqu'à* の前に休止を設け、節中に Q が新局面の事態であることを明示するための *enfin, un jour* のような表現を用いるのが観察される (同上, p. 148) と言う。今回、使用したサブコーパスの中で抽出できた、そのタイプに相当するような例が次である。

- (38) On a exposé avec complaisance les faits qui leur paraissaient favorables, et on a gardé le silence sur ceux qui les renversent, *jusqu'à ce qu'enfin des hommes plus sévères dans leurs observations, ont de nouveau fait prévaloir la vérité.* (*Hist. Gen. Sciences*, T. 3, Vol. 1, 1961, p. 489)

主節と従属節が同一主語の場合にも、直説法が用いられているものがあつた。

- (39) *Jusqu'à ce que j'ai fait ce rêve je pensais même pas écrire aux journaux. Pourtant ces tartineurs de bobards, ces gluants de la plume, y m'avaient foutu la rage à ma douleur.* (Lasaygues, F., *Vache noire, hannetons, Songe d'une nuit d'automne*, 1985, p. 149)

この例では、*jusqu'à* が導びく節は前置され主節との句点も表記されていないが、P で描かれている現実の時間の流れに則して持続していたことが中断された限界点を、重要な出来事として、明らかに時間軸上に存在するものとして記してあることは読み取れる。ただし、インフォーマントに直説法と接続法の二通りを見せて判断してもらったところ、今回の協力者は全員、直説法を容認不可とみなした。他の例で、原文が *Je vais donc jusqu'à ce que je crois* とあるものを見せたときも、接続法の活用形 *je croie* にすべきであるというのが今回の協力者の意見であつたが、実際に、口頭での発言を耳にした場合は直説法との区別はつかないわけであるから、書き言葉と話し言葉との差異を十分考慮に入れて扱うべき問題である。また、他にも今回のサブコーパス中で 9 例抽出できたが、それが登場している発話構造にはかなり複雑なものもあれば、(39)のようにそうとも言えない例もある。通常の接続法使用の場合と比べて、Q が時間的により正確な情報を与える新局面の事態を表すということが明らかに認識できるような指標を見いだすには、より多くの例を検討する必要がある。

## 5. おわりに

同一の行為主体に関わる二つの行為を、関係辞 *jusqu'à* を用いて表す場合、不定法表現が原則であるのに節表現が選択された理由について、事例の検討を中心に考察してきた。節表現が選ばれるのは、曾我の指摘にあつたように、Q の自立性が高いと解釈できる場合であることは確認できた。節表現も不定法表現も可能とインフォーマントが判断するような発話から、Q の時間的關係と観念的關係が重なる場合の両者の配分に関して、解釈者の立場から引き出せる何らかの指標があるかどうかの試みについては、結果を出すにはいたらなかった。

また、*jusqu'à ce que* 節が発話全体のなかで占める位置については、*avant que* を伴う場合に比べヴァリエーションが少なかった。先行研究での指摘にもあるように、*jusqu'à* という関係辞は前置されにくいことと合わせて考えると、それだけに前置が持つ意味は大き



いと推測される。今回は、主節と従属節が同一主語である場合に注目したので、前置例の検討もそのタイプのものだけであったが、使用したサブコーパス中だけでも他の前置例があった。それらとも合わせて分析を進めていくことは、前置する発話意図の解明に繋がるであろう。より多くの例の収集や方法論の再検討も含め、今後も継続的に取り組んでいきたい課題である。

## 注

1 御協力くださったのは、大阪大学言語文化部の Adriana Rico-Yokoyama 講師、金沢大学言語教育センターの Béatrice Leroyer 講師、および、パリ第四大学言語学科 DEA 修了 Anne Giafferi 氏である。あらためてお礼を申し上げる。また、面接しながら議論する時間的余裕が十分にとれず、主に書面によるやり取りで行った調査だったため、意思疎通の面での不十分さが残っているかもしれない。その点は、より多くのインフォーマントの協力を求めていきながら今後の継続課題としたい。

2 引用した例は曾我 (1992) のもので、例番号は筆者が付け直した。相当する原文頁は次の通りである。(1)~(4) は pp.142-143、(5) は p.144、(6)~(8)は p.146。

3 P は中核事態 (関係辞が導く節が直接関与している事柄) を、Q は状況事態を示す記号である。

4 ここでの主節というのは、従属節が直接関与している節 (中核事態 P を表す節) のことである。

5 E. Benveniste のいう *discours* に相当するタイプ。

6 全ての抽出例について調査することは不可能なので、様々な動詞時称形の組み合わせの発話のなかから、あまり複雑な構造でなく、前後の文脈を長く引用しなくても解釈しやすいもの、22 例を選んだ。

7 筆者が行った調査結果を示す記号の意味は次の通りである。\* は、全員が容認不可能と判断。?? は、二人が容認不可能、あるいは拒否しないまでもむしろ不自然と判断。? は、一人が容認不可能あるいは拒否しないまでも不自然と判断。

8 出典を記してあるものが、原文の一部である。

## 主要参考文献

- Arrivé, M. et al. (1986) : *La grammaire d'aujourd'hui*, Flammarion, Paris.
- Benveniste, E. (1966) : *Le problème de linguistique générale*, Gallimard, Paris.
- Cellard, J. (1983) : *Le subjonctif: comment l'écrire? comment l'employer?*, Duculot, Paris-Gembloux.
- Chevalier, J.-C. et al. (1964) : *Grammaire Larousse du français contemporain*, Larousse, Paris.
- Cohen, M. (1965) : *Le subjonctif en français contemporain*, 2<sup>e</sup> éd., SEDES, Paris.
- Dubois, J. et al. (1973) : *La nouvelle grammaire du français*, Larousse, Paris.
- Franckel, J.-J. (1989) : *Etude de quelques marqueurs aspectuels du français*, Droz, Genève-Paris.
- Grevisse, M. (1986) : *Le bon usage. Grammaire française*, 12<sup>e</sup> éd., Duculot, Paris-Gembloux.
- Monnerie, A. (1987) : *Le Français au présent*, Didier/Hatier, Paris.
- Pinchon, J.-P. (1986) : *Morphosyntaxe du français*, Hachette, Paris.
- Riegel, M. et al. (1994) : *Grammaire méthodique du français*, Presses Universitaires de France, Paris.
- Sakagami, R. (1997) : *Fonctionnement de quelques connecteurs temporels en français : représentation de relations aspecto-temporelles inter-propositionnelles en vue d'un traitement informatique*, Thèse de doctorat, Université Paris IV, Paris.
- Sandfeld, K. (1965) : *Syntaxe du français contemporain, les propositions subordonnées*, Droz, Genève.
- Wagner, R.-L. et Pinchon, J. (1962) : *Grammaire du français classique et moderne*, Hachette, Paris.
- 阪上るり子 (1993) : 「時間的状況補語節の位置と機能」、『年報フランス研究』27号、関西学院大学フランス学会、pp. 55-64.
- 阪上るり子 (2004) : 「Avant que について—主節と従属節の主語が同一の場合—」、『金沢大学文学部論集言語・文学篇』第24号、金沢大学文学部、pp. 65-83.
- 曾我祐典 (1992) : 『フランス語における状況の表現法—構文・動詞叙法の選択—』白水社